

## 令和4年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [ 京丹後市立峰山こども園 ]

評価項目	重点目標	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
保幼小中一貫教育の推進(保幼小接続)	『峰山学園』の連携自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子どもの育成 ・意欲を持って学ぼうとする力の育成 ・コミュニケーション能力の育成と適切な人間関係の育成 ・園小の円滑な育成	具体的方策 ・峰山学園経営会議を通して園児・児童の実態を交流する中で、共通の目標を持ち、言葉の力・聞く力・話す力を育てる教育・保育を進める。 ・遊びを中心とした活動を通して中学校卒業までの、一貫したコミュニケーション力を育てるための指導を共有する。 ・小1スタートカリキュラム・アプローチャカリキュラムの検証を行いながら実践を重ねる。 ・私立園との交流会や峰山学園担任会を通して、教育・保育内容の共通理解を深める。	成果と課題(自己評価) ○経営会議で各校や他園の状況を聞くことで、自園の教育・保育を振り返り、成果や課題を明確にすることができ、遊びの大切さや10の姿を描きながら、実践へつなげることができた。 ○学園でのこども園公開保育が、コロナ感染症拡大によって中止となり、保育は見えなくなかったが、実践報告(発表)の場を頂き、本園の教育・保育と幼児教育の大切さを知ってもらうことができた。 △学園担任会等を通し、私立園や小学校との連携は深められたが、スタートカリキュラムやアプローチャカリキュラムを検証して実践するところまでは難しかった。交流を深めながら検証を行い実践していく。
こども園経営方針(中期経営目標) “笑顔でつなごう。心とこころ!!” ～いっぱい遊ぼう 夢中になって～ (1)生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。 (2)主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。 (3)身近な人や地域とのかかわりをもつ力を育てる。 (4)友達と関わりながら、夢中になって遊びこめる環境を整えながら、持続力や協同力を育てる。	前年度の成果と課題 ○保護者と連携を持ちながら、感染症予防に努め、様々な行事や活動の仕方や内容を見直し、安定した園生活や活動を落ち着いた雰囲気の中、進めることができた。 ○様々な実体験を通して、感動体験や学びに向おうとする姿勢や豊かな言葉力に繋げることができた。 ○園児の言葉で伝え合う主体的な活動を認め、協同活動を進めたことで、達成感や満足感を味わい自己肯定感に繋げることができた。 ○教育フォーラムや民生委員への公開保育を通し、園の教育・保育や実態を発信することができた。 △開かれた園として、地域への情報発信の手段であるホームページの活用を行ってきたが、更新が十分とは言えなかった。 △職員の資質向上のための園内研修に努めてきたが、時間を確保するための体制を組むのが難しかった。	本年度こども園経営の重点(短期経営目標) ・園児自らが生活の仕方や健康に関心を持ち、規則正しい生活が習慣になるようにする。 ・様々な体験を通して、豊かな感性や言葉の力を養う。 ・「楽しいこども園」を基本に、遊びを中心とした活動の中で、コミュニケーション力や持続力、学びに向かう力を育てる。 ・園児の主体的に取り組む姿を認めながら、他者と関わる力を育てる。 ・保護者が安心して子育てができるように子育ての不安に寄り添い支援する。 ・地域に開かれた園として、情報発信に努める。 ・滑らかな接続ができるように、峰山学園(保幼小中一貫教育)の連携を深める。	

<p>教育課程</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。</li> <li>・基本的な生活習慣や態度を育てる。</li> <li>・自分の思いや考えを表現したり行動したりできる力を養う。</li> <li>・日常的に園内外での安心・安全に過ごそうとする姿勢・態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内外での活動を通し、発見や感動体験を増やし、考えたり工夫したりしながら遊ぶ機会をもつ。</li> <li>・園児の生活や発達の状況を把握し、個々に合った助言や援助・指導を行う。</li> <li>・あいさつデーを設定し挨拶をすることの大切さを知らせる。</li> <li>・生活点検表などを活用し、生活習慣を整えていく。</li> <li>・活動や行事に向けての話し合いの時間や場を持ち、主体的な活動を進めていく。</li> <li>・言葉で伝えたり聞いたりしながら、協同活動を進めていく。</li> <li>・散歩や交通教室などで、交通ルール・集団でのルールを考えたり知らせたりしながら、様々な場面での危機管理について学ぶ。</li> </ul>	<p>○泥や砂・水遊びなどで様々なことを肌で感じたり、野菜栽培等での失敗や成功体験などを通して、学びに向かう力や豊かな言葉力に繋げたりすることができた。</p> <p>○子ども達の主体的な行動や、思い・考えを言葉にすることの楽しさを大切にすることで、行事のやり方や内容を見直したり工夫したりしながら、協同的な活動を進めていくことができた。</p> <p>○毎月1日をあいさつデーとし、挨拶の大切さを伝えることで、中には言葉としては発さないが、目と目を合わせて会釈してくれたり、笑顔で登降園する姿を見せられてくれたりした。</p> <p>△感染症防止や交通量の多さから、園周辺の施設や公園などに出かける機会がもてず、実体験や場を設定しての安全指導を行うことが難しかったため、様々な場を利用しで安全教育に取り組んでいく。</p>
<p>子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の思いや不安な気持ちに寄り添いながら、相談がしやすいつ票囲気をつくり丁寧に対応をする。</li> <li>・園開放や園庭開放・懇談会など、保護者同士が交流し合える場を提供する。</li> <li>・園児や家庭の実態を把握し、保護者との連携を丁寧に行い、個々に合った支援や対応をする。</li> </ul>	<p>○日々の保護者への連絡や報告・相談を丁寧に行うことで、適切な対応や連携をもつことができた。</p> <p>△保護者同士の交流は、感染拡大防止の観点から場（園開放など）を規制することが多く、計画していた回数が増えてなかったため、相談しやすい環境づくりや場の設定の仕方を工夫し、子育て支援が充実するようにする。</p>
<p>研修 (教員の 資質向上・ 人権教育)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修の充実を図り保育教諭の資質向上（人権を含む）に努める。</li> <li>・保育支援システムやICTの活用を効率よく進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間研修計画をもとに、指導力や関わり方など保育教諭の資質能力の向上を目指した研修に取り組む。 (公開保育・担任会・事例研修)</li> <li>・職員同士で保育の振り返りや意見交流などの機会をもち、学びの充実を図る。</li> <li>・(職員会議・学年会議等、時間の確保をする。)</li> <li>・保育支援システムを活用し、教育・保育の実践に活かす。</li> </ul>	<p>○感染拡大防止の観点から様々な研修がオンライン開催となったことで、園内での研修が可能となり、多くの職員が積極的に参加することができた。</p> <p>△園内での研修がタブレットを使って可能となったが、それを活かした全職員での話し合いや学び合う場や時間を設定することが難しかった。全職員が共に学び合える工夫をし、職員全体の資質向上に努めていく。</p> <p>△保育支援システムをドキュメンテーションの活用や便りの配信に活かし、質の高い教育保育の実践に結びつけていく。</p>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の取り組みなど積極的に発信し、一貫教育での縦の繋がりを大切にしながら連携を深め、職員間での学びを深めていく。</li> <li>・実体験や感動体験を大切にし、園児の主体的な生活や活動を進めていく。</li> <li>・日々の活動や行事の実施の仕方など工夫しながら、開かれた子ども園として保護者や地域の方と共に教育・保育を進めていく。</li> <li>・教員の教育保育に係る人権意識や、保育支援システムの活用を進めながら質の高い教育・保育の実践に努める。</li> </ul>		

# 令和4年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [京丹後市立大宮こども園]

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
<p>人との関わりや体験を通して、心豊かでたくましく、生き生きとあそぶ子どもの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康で安全に活動する子ども</li> <li>身近な環境に自ら関わり、主体的に行動・活動する子ども</li> <li>人の話をしっかり聞き、自分の思いや考えを素直に表現できる子ども</li> <li>素直で思いやりがあり積極的に関わ合う子ども</li> </ul>	<p>前年度の成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大宮学園の教育の推進により、保育所・こども園・小中連携活動の充実を図ることができた。</li> <li>○主体的な活動や体験活動の充実、心の教育の充実により、生きる力の基盤となる力の育成を図ることができた。</li> <li>○大宮こども園の教育活動を丁寧にホームページやたよりに等で発信し、教育活動への理解を広げることができた。</li> <li>△コロナ感染症防止のため、活動や行事の日程や内容を変更したり中止したりと実施方法を工夫してきたが、保護者や地域の人手のふれあいやなど、関わりを持つことができなかった。</li> </ul>	<p>本年度こども園経営の重点(短期経営目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アプローチプログラム改善、園小連携活動、共同研修を進め、園小の効果的接続を充実させる。</li> <li>・日常教育・保育、異年齢交流、体験活動の充実をさせ、生き生きと遊ぶ力、言葉で伝え合う力、互いに思いやり協同する力を育成する。</li> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に係る理論及び実践についての研修を充実させ、指導力向上を図る。</li> <li>・家庭・地域との連携を密にし、教育・保育活動や子育て支援の充実を図る。</li> </ul>
<p>評価項目 保幼小中 一貫教育 の推進 (保幼小 接続)</p>	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ことばの力」「思いやり心」「つながる力」を高め、生きる力を育成する。</li> <li>・幼児教育から小学校教育への円滑な接続のために、園小による教育活動や研修を充実させる。</li> <li>・大宮学園共通の家庭との連携として『言葉の力・心を育てる』取り組みを進める。</li> </ul>	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶、振り返り活動、当番・飼育栽培・体験活動、異年齢交流等、言葉を介して互いに関わり合う場を充実させることにより、友達を思いやる話が増え、互いを大切にに関わり合う姿に広がりが見られるようになった。</li> <li>○コロナ感染症防止を図りながら小1プロブレム解消のための園小連携活動、大宮学園のアプローチプログラムに基づいた教育活動を進め、小学校入学に向けて期待感を膨らませるとともに、心構えを育てることができた。</li> <li>○年間を通して、保護者会連携、園だより、懇談会、子育て相談、連絡ノート等を活用し、園生活の様子や子育て状況を共有することにより、各家庭への子育て支援を進め、「思いやる心の育成」・「生活リズムの確立」に取り組むことができた。</li> </ul>
<p>教育課程</p>	<p>日常生活での感染症予防意識を高め、予防に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を大切にすることに関心を持ち、方法を身に付けるための健康・安全教育、食育に取り組む。</li> <li>・発見や感動を体験させ、友達と関わることや体を動かすことを楽しめるようにするために、室内外の遊具や用具、園内外の自然や自然物と関わる活動に取り組む。</li> </ul>	<p>日常生活での感染症予防、生活習慣・規律の習得、食育を進めるための指導や体験的活動を工夫して取り組み、体を大切に生活しようとする意識を高めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○同年齢・異年齢で泥んこ遊び、自然物制作、色水遊び、サーキット、築山すべり等に取り組み、体を動かすことを楽しみ、発見や感動を豊かに言葉や体で表現し、友達と夢中になって楽しみながら活動を進めていく子どもの姿が見られるようになった。</li> </ul>

教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力、豊かな人間関係を築く力を育成する。</li> <li>・園生活での身近な人と親しみ、関りを深め、思いやる心を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力を高めていくために、表現を楽しむ活動、思いを伝え合う活動、話し合い活動に取り組み。</li> <li>・集団遊びや異年齢交流を取り組みながら、楽しさや嬉しさ、葛藤体験を通して言葉のやり取りや折り合うことを経験したり学んだりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○創作等表現を楽しむ場面、保育者・友達の話や聞き合う場面、思いを伝え合う場面、話し合う場面等で丁寧に意思の疎通を図ることにより、子ども達は、日を追うごとに自分らしい言葉で思いを伸び伸ばし伝え合い、誘い合って遊びの輪を広げられるようになった。</li> <li>○感情的な行き違いや欲求の対立場面に丁寧に関わり、振り返りや話し合いを充実させることにより、互いに思いを受け止めたり折り合いを付けたりしながら解決策を見つけていくようにした。</li> <li>○コロナ感染防止のため、活動や行事の取り組み方法の変更や工夫を行いながら実施に努めた。</li> </ul>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の子育ての不安や悩みに寄り添い、安心して子育てができるように家庭教育支援や子育て支援を充実する。</li> <li>・社会環境や家庭環境の変化を理解し、対応しながら保育を充実する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育への支援を充実させるため、懇談会・たよりや子育て相談・ドキュメンテーション等に取り組む。</li> <li>・日常的な子育て相談の場、親子体験活動や保護者同士の交流の場を工夫し、発達特性や成長に応じた、保護者に寄り添った子育て支援に取り組む。</li> <li>・子育て支援センターや一時預かり保育・預かり保育を周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○懇談会・園だより・クラスだより・ドキュメンテーションなど、園から丁寧な発信を行うことで、「大宮こども園」の教育・保育への理解を広げ、家庭教育・子育て支援を充実させることができた。</li> <li>○発達特性や成長に応じた子育て相談を丁寧に進めることにより、個別な子育て支援を進めることができた。</li> <li>○社会・家庭環境の変化への対応を図るための情報発信に努め、子育て支援施策への理解を広げることができた。</li> <li>△コロナ感染防止や登降園方法の変更等保護者との直接会話の機会が減り、即日の子育て連携がタイムリーに実施できなかつた。</li> </ul>
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園・家庭・地域との連携の仕組みを整え、充実する。</li> <li>・地域の環境や人材を活用し、体験活動を充実する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園からの丁寧な発信や連携の工夫を行う。 (園だより・クラスだより・ホームページ・懇談会・参観・保育支援システム・電話連絡等)</li> <li>・保護者会・活動支援ボランティアの協力を得て、園周辺自然環境・施設を活用した園外教育活動に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ感染防止を図りながら、園と家庭、保護者同士の連携の方法を工夫し、保護者会の運営や活動を充実させるため支援を行い、子ども達への教育効果を高めることができた。</li> <li>○コロナ感染防止を図り、取り組み方法の変更や工夫を行いながら、園周辺の田んぼでの稲作り、グループホームを活用した地域連携活動、地域ボランティアの活用による園外教育活動を実施することができた。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉を紹介した関わり合う教育活動を進める基盤となる、「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を図る。</li> <li>○園小の円滑な接続の実効性を高めるため、アプローチプログラム改善、園小連携活動・指導方法に係る共同研修の充実を図る。</li> <li>○心豊かでたくましく、生き生きと遊ぶ子どもを育成するための日常の教育活動・異年齢活動・体験活動の充実を図る。</li> <li>○コロナ感染防止により縮小した園内・外教育活動、地域連携活動、小中一貫教育活動、保護者連携活動、子育て支援等の充実を図る。</li> <li>○幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、5領域について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に留意して指導を充実させ、幼児教育・保育で育みたい3つの資質・能力を育成するため、計画的に理論研修・事例研修・実践研修を充実させ、指導力の向上、教育活動の充実を図る。</li> </ul>		

## 令和4年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名〔 京丹後市立網野こども園 〕

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
<p>『園児自らが主体的に環境に関わり、心豊かでたくましく生きる力を育てる。』</p> <p>(あ)明るく元気で主体的に活動する子どもの育成</p> <p>(み)みんななかよく思いやりのある子どもの育成</p> <p>(の)伸び伸び生き生きやりぬく子どもの育成</p> <p>&lt;テーマ&gt; 『どきどき わくわく きらっ! ひとりひとりひりがかがやいて』</p>	<p>前年度の成果と課題</p> <p>○研究主題やその捉え方、仮説等に基づいて実践した教育・保育計画を手に取りながら、取組内容の共通理解をしたりする等、基本方針を土台に教育・保育を進めることができた。</p> <p>○園児の姿をベースに、遊びや環境構成の在り方の重要性を全職員で確認し、学びを実践につなげることができた。</p> <p>○コロナ禍でも感染対策を講じて開催した参観日や運動会、発表会で園児の様子が見てもらえたことは保護者の安心感につながり、成長を感じとってもらえた。</p> <p>△コロナ禍の関係で保護者同士の交流の機会は少なかった。</p> <p>○要支援児への支援策や遊びの捉え方、環境構成等、様々なことについて日々職員間でやり取りしやすいつながりができた。</p> <p>△保育教諭によって支援の仕方や感覚に意識の差があり、OJTの成果が積み上がりにくかった。</p>	<p>本年度こども園経営の重点(短期経営目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・網野学園の課題や取組み等を園内で共通理解するとともに、昨年度修正した学園独自の長期モデルプランに基づき、アプローチプログラムの再検証をしながら実践する。</li> <li>・乳幼児期に育ませたい非認知能力を明確にし、共通理解したり仮説を立てたりしながら、遊びの中の学びを捉える。</li> <li>・コロナ禍でも可能な方法を見出し、保護者との連携や相談に応じる体制づくりに努める。</li> <li>・健康的な生活習慣の確立に向けた取組みと園内外での安全指導や安全対策を考慮する。</li> <li>・園児一人一人のウエルビーイングを高めることを目指し、職員同志の同僚性やOJTを積み上げていく。</li> </ul>
評価項目	重点目標	成果と課題(自己評価)
<p>保幼小中一貫教育の推進(保幼小接続)</p>	<p>・「網野学園」の教育目標をもとに、基本方針や取組内容を理解しながら教育・保育を進める。(確かな学力の育成・規範意識の醸成・豊かな人間性・非認知能力の育成等)</p> <p>・園児と児童の交流の機会や保育教諭と教師の研修の場を重視し、相互理解を強化する。</p>	<p>○非認知能力の育成と『ギミックシート』の記入要領等を全職員で共有したり、実践につなげたりしたことで、網野学園が目指す育成プランや基本方針に迫ることができた。</p> <p>○コロナ禍ではあったが、小学校との連携交流はできる限り積極的にアプローチしていくことで、幼児期の教育・保育について理解を深めたり、学習発表会リハール等を見学することができた。また、アプローチプログラムや非認知能力の育成について、自園で作成した実践シートを活用しながら園内研修を積み、全職員で検証し共有することで、全年齢の遊びや学びにつなぐことができた。</p>

教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい園生活を過ごせるようにする。</li> <li>・主体的・対話的な遊びをくり広げられるような環境づくりをする。</li> <li>・人とつながり合うことの喜びを味わえるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣の確立を基盤に、安心安定した園生活になるよう園児と保育教諭等の信頼関係を図る。(心の居場所づくり)</li> <li>・遊びの中の学びを見取りながら、集団の中で一人一人が生き生きと園生活を過ごすことができるような環境を整え、実践する。(園生活の充実)</li> <li>・園児が主体的に協同的な遊びを展開したり、知的好奇心をくすぐりながら(揺り動かしたりしながら)遊ぶことができるような環境の工夫や援助をする。(遊びの充実)</li> <li>・友達と一緒に過ごす中で心地よさや友達のよさを感じられるような取組みをする。(同年齢・異年齢児との関わり、言葉でのやりとり、遊びの発展等)</li> <li>・保護者に園児の様子を知らせる(園日より、クラスだより、懇談会等)とともに、『網野学園家庭学習頑張り週間』の取組みを通して基礎基本の大切さを意識付ける。</li> <li>・「園開放日」や子育て支援センターでの親子の情報を基に、保護者同士が交流できる場を設定し、互いが楽しんで悩みを交流したりできるようにする。</li> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領、京丹後市の指導の重点、網野こども園教育・保育計画等を読み解き、教育保育の重要事項を共通理解する。</li> <li>・網野こども園の教育・保育について全職員を対象に保育の実践力や人権意識の向上を目指すための園内研修を実施する。</li> <li>・職員間の同僚性、OJTを最大限に活用し、よりよい教育・保育につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人のウェルビーイングを高めていくことを念頭に保護者との面談を繰り返したり、こどもクリニック等に同行したりする等、個別最適な支援を最優先とした教育・保育を進めたことで、主体性や協同性を伸ばすことができた。</li> <li>△保護者との連携を密にしなが、一人一人の成長を共有し、園児らしさやよさを受け止め、愛情豊かな関わりを重視したが、家庭生活や生活習慣の不安定さにより、園児の内面に抱えている不安感等が大き、園だけでは支え切れないこともあった。</li> <li>○園児の思いや考えを引き出しなが、友達と一緒に遊びや生活を進める喜びや意欲につなげられるよう環境を整えていった。</li> <li>○園児同士のつなぎを意識した教育・保育してきたことで、遊びや活動等を通して、徐々に友達と協同する楽しさや喜びにつなげた。</li> </ul>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭と連携し、基本的な生活習慣の確立を目指す。</li> <li>・未就園の親子対象のこども園体験を実施し、子育ての安心安定を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスだより配布や個人面談をこまめに行い、園での様子を共有できるようにした。保護者側から面談依頼があったことは、連携の成果だと感じる。また網野学園の取組みも定着したが、点検表の見直しを行ったことは、さらに効果的だった。</li> <li>○コロナ禍で園開放の利用者は少なかったが、未就園児の一時預かり保育の利用者が増えたことは、子育て支援につながっていると感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○クラスだより配布や個人面談をこまめに行い、園での様子を共有できるようにした。保護者側から面談依頼があったことは、連携の成果だと感じる。また網野学園の取組みも定着したが、点検表の見直しを行ったことは、さらに効果的だった。</li> <li>○コロナ禍で園開放の利用者は少なかったが、未就園児の一時預かり保育の利用者が増えたことは、子育て支援につながっていると感じる。</li> </ul>
(A) 研修 (教員の 資質向上・ 人権教育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修やテーマ研究を通して、全職員の資質向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・網野こども園の教育・保育計画を軸に、毎月の園内研修に加え、重点研究、非認知能力の育成、要支援児等について協議や検討をし、全職員で進めることができた。</li> <li>○園児に対する向き合い方を話し合ったことで全職員が、人権意識をもって教育保育にあたっていると認識できた。</li> <li>△教育・保育に対するベクトルを揃えるため、職員間で協議を重ねたが、認識や捉え方に対して感覚的な違いが垣間見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○網野こども園の教育・保育計画を軸に、毎月の園内研修に加え、重点研究、非認知能力の育成、要支援児等について協議や検討をし、全職員で進めることができた。</li> <li>○園児に対する向き合い方を話し合ったことで全職員が、人権意識をもって教育保育にあたっていると認識できた。</li> <li>△教育・保育に対するベクトルを揃えるため、職員間で協議を重ねたが、認識や捉え方に対して感覚的な違いが垣間見られた。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の特徴的な部分を踏まえての教育・保育の在り方をさらに追求するため、幼児教育アドバイザー等、専門講師を招聘し、実践力を向上させる。</li> <li>・「非認知能力の育成」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をツールとして、小学校との連携を強化する。</li> <li>・拓かれた園づくりを目指し、保護者や地域との連携をより深めていく。</li> </ul>		

## 令和4年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [ 京丹後市立丹後こども園 ]

こども園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や遊びの中で様々なことに心を動かすし豊かな園児を育む。</li> <li>地域に愛され、保護者に信頼される園づくりを進める。</li> <li>資質向上を目指し、職員同士が互いに学び合える組織づくりを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇たくさんの人やものに関わる経験を重ねたことで、自分の気持ちを伝える喜びを味わい、また思いやりの気持ちを育むことができた。</li> <li>〇園だよりやクラスだよりを充実させたり園での日々の様子を丁寧に伝えたことにより、保護者の理解が深まった。</li> <li>〇幼児は生活点検表をつけることで、生活習慣を身につけるための意識づけとなった。また、園児の生活状況を知ることによって個別に助言や指導を行うことができた。</li> <li>△丹後学園の連携では、コロナ禍のため、各校園所の行事や会議など参観する機会が少なく、系統的な指導を見ることが難しく、連絡シートの改善には至らなかった。</li> </ul>	<p>「いっぱい遊んで つながって」 ～思いを伝えながら夢中になって遊ぶ子どもをめざして～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>思いや考えを伝え合える楽しさや喜びが実現できる活動のための教材研究や環境づくりをする。</li> <li>地域の自然に触れたり、様々な人やものと関わりながら豊かな心を育む。</li> <li>園の情報を積極的に発信し、家庭・学校及び関係機関、地域との連携を図り、連続した園児の発達や学びとなるようにする。</li> </ul>	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〇学園の経営会議や授業参観等で園児・児童の様子を把握したり、情報交換したりすることによって、小学校へのスムーズな接続につながった。</li> <li>△新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの感染拡大防止のため、中学校との交流やこども園の公開保育ができなかった。</li> <li>〇小学校との滑らかな接続については、限られた時間の中で的確に伝えることの難しさを感じたものの、子ども主体で活動が進められた体験入学等により就学への期待が高まった。</li> <li>〇アプローチプログラムやスタートカリキュラムを活用した4月からの授業参観で、こども園で大切にしてきた学びが継続されていることを感じた。</li> </ul>	
評価項目	重点目標	具体的方策		
保幼小中 一貫教育 の推進 (保幼小 接続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇『丹後学園』の連携</li> <li>・夢と希望と創造性あふれる豊かな心をもち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成</li> <li>・言葉で伝えあい、主体的に取り組む子ども(知)</li> <li>・自分を大切にし、人を思いやれる子ども(徳)</li> <li>・ねばり強く身体をきたえる子ども(体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園の会議や授業研究会などに積極的に参加し、教育目標や取組について理解を深め、丹後こども園の教育保育につなげる。</li> <li>・保幼小接続部会や連絡会などで園児、児童の様子を把握し、小学校への滑らかな接続ができるよう連絡シートの見直しや改善を行う。</li> <li>・アプローチプログラムやスタートカリキュラムを活用し教育保育内容を検証しながら滑らかな接続ができるよう取組を進める。</li> </ul>		

教育課程	<p>○保育・教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心安定した中で、感性や表現力を豊かにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児や保護者一人一人の思いを受け止め、生活習慣の確立を基盤に、居心地のよい環境づくりを進めていく。</li> <li>・絵本の読み聞かせを通して、言葉のもつ意味、言葉の響きや言葉を交わす面白さ、美しさが味わえるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日園児や保護者と話し、気持ちを受け止め丁寧に関わることで、心の安定につながった。</li> <li>○絵本の読み聞かせを通して、イメージを広げたり、言葉の美しさを味わうことができた。</li> </ul>
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢児と関わる機会を大切にし、人と関わる楽しさを体験させる。</li> <li>・園児自らが周囲の環境に関わり、活動を展開する充実感を味わいながら必要な経験を積み重ねていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢の活動を通していろいろな友達と関わり、葛藤体験を通して思いやりや心のやりあいがれの気持ちを育てるようになる。</li> <li>・自らの健康や生活に関心をもち、体操やサーキットなど友達と一緒に体を動かした遊びを取り入れることで、体を目覚めさせ、リズムある生活が習慣となるようにする。</li> <li>・地域の人々の生活に興味や関心をもてるように田畑、山、海など散歩に出掛けたり、園内外での菜園活動を通して実体験を重ねていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍ではあったが、感染予防をしながら異年齢で一緒に散歩に出掛けたり、栽培物の生長を見たり収穫をするなど関わったことで、思いやりや心のやりあいがれの気持ちをもつことができた。</li> <li>○健康な体をつくるため、毎日時間を決めてマラソンや体操をすることで、生活リズムが整ってきた園児が増えた。</li> <li>○丹後地域の自然の美しさの中で散歩にでかけたり、地域の人と一緒に行った栽培活動では、大きさや形の違いに気づいたり収穫の喜びを味わったりして様々な体験をすることができた。</li> </ul>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と連携し、それぞれの家庭に合わせた支援をする。</li> <li>・未就園児親子の子育ての安定を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して子育てができるよう、日々の園児の様子を伝え成長を共に喜び合える機会を設ける。(登降園時、懇談会)</li> <li>・親子で触れ合う時間が持てるように絵本の貸し出しを行う。</li> <li>・子育ての楽しさや悩みを相談できるように、未就園児の親子が交流できる場を設ける。(地域子育て支援センター、こども園開放等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登降園時には、保護者に丁寧に園児の様子を伝え、行事や日々の遊びの様子を写真や動画など、保育支援システムを利用して送ったり掲示したりしたことで、園児の様子を知らせることができた。</li> <li>○支援センターでは保護者同士が交流するだけでなく、悩みが相談できる時間や場を設けることで、乳幼児期で大切とされる生活リズムの大切さを知らせたり改善するきっかけとなったりした。</li> </ul>
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な人との関わりの中で生きる力を育む。</li> <li>・基本的な生活習慣を身につけ見通しをもって行動できるように家庭と連携する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園外に出掛け、地域の自然に触れ合いながら遊び、祖父母や地域の方の話を聞いたりして興味や関心が持てるようにする。</li> <li>・園児一人一人の生活環境を把握し、家庭と連携しながら個々に応じた指導を行う。</li> <li>・家庭に協力を求め、健康チェックカードや生活点検表を通じて園児が健康で安全な生活が送れるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園外で地域の人に出会い、野菜の育て方について見たり聞いたり、また、柿をもらい園で干し柿にしたりするなど、興味や関心をもつことができた。</li> <li>○生活点検表を実施することにより、親子で生活習慣について話し合い自己を振り返ることができた。また、一人一人に合わせた助言や指導をすることができた。</li> <li>○丹後学園の取組として、5歳児が中心となり、玄関で友達や保護者に挨拶運動を行ってきた。コロナ感染症が広がった時はできなかつたが、全園児が気持ちよく登園することができるようになってきた。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が安心安定できる環境をつくり、思いを伝え合いながら意欲的に遊ぶ園児の育成を目指す。</li> <li>・挨拶も一つのコミュニケーションの一つになるので、様々な場面で進んで挨拶ができる習慣をつくる。</li> <li>・小学校との連携では交流活動の事前、事後の職員間の話し合いを大切に、双方に学びのある活動となるようにする。</li> </ul>		

## 令和4年度 学校評価 自己評価報告(こども園)

こども園名 [ 京丹後市立弥栄こども園 ]

こども園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
1	生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体を育てる。	○保育教諭が園児の発想を丁寧を受け止め、共に遊び、面白さを伝えながら、工夫していくことで、イメージを膨らませ、遊びを発展させ楽しむことができるようになってきた。 ○散歩に出かけた際には、地域の人と挨拶を交わし、話をしたり、田畑のことを質問をする中で、園の栽培活動の指導に来てもらったり、国営農地での芋ほりなど経験することができた。 ○琴の演奏や絵本の読み聞かせボランティアなど、様々な人との触れ合いや体験することで挨拶や言葉の表現の仕方を知ることができた。 △日々の活動の振り返りでは、捉え方の不十分さから園児の遊びが広がらないこともあった。 △情緒の安定を図るため、絵本や物語等の読み聞かせや個々への関わりをもってきたが、落ち着いて聞けない園児もいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣を身に付け、自立心を育む。</li> <li>・園児自らが周囲の環境に関わり活動する充実感を味わいながら、発達に必要な経験を積み重ね豊かな心を育む。</li> <li>・いろいろな人との関わりを通して、自分の思いや考えを伝えたり、人の話を聞いたりする等、コミュニケーション能力と思いやりの心を育む。</li> <li>・家庭、学校、関係機関及び、地域との連携を行い、充実した教育保育を進める。</li> </ul>	
2	自ら様々な環境に関わり意欲的に遊ぶ中で豊かな心を育てる。			
3	身近な人や地域と関わり、思いやりの心や人権意識、規範意識の芽生えを育む。			
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)	
保幼小中一貫教育の推進(保幼小接続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弥栄学園の教育目標を踏まえて学園の基本方針に基づき、取り組みを進める。</li> <li>・小学校との連携を密にし、スムーズな接続を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園経営会議に出席し、園児、児童、生徒の実態を把握し、不登校の解消や未然防止など課題について取り組む。</li> <li>・弥栄学園の諸会議や公開授業などに参加し、全職員でスタートカリキュラム・アプローチプログラムを検証を行いながら、実践を重ねていく。</li> <li>・学園内でこども園の公開保育を行い、幼小で育成する資質、能力のつながりを明確にして、小学校への滑らかな接続を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○弥栄学園内での不登校傾向や不登校などの未然防止のために小中学校の実態から自園の状況を細かく把握することができ、共通の支援や指導の必要性を学ぶ良い機会となった。</li> <li>○園小接続部会の中でスタートカリキュラム、アプローチプログラムを読み取りながら、園児・児童の実態を振り返り、内容を見直すことができた。</li> <li>○5歳児担任と1年生担任で園小接続部会を開催し、交流事業の内容について、園児の様子などを伝えながら検討すること、みんなが不安なく参加することができ、小学校入学を楽しみにしている。</li> </ul>	

教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心、安定の中で園生活が送れるように関わる。</li> <li>・基本的な生活習慣を身に付け、見通しをもって行動する園児を育てる。</li> <li>・自分なりの言葉で表現したり、相手の話を聞こうとしたりする意欲や態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児一人一人の生活実態や発達に応じて、必要な支援方法を考え実践する。</li> <li>・園児や保護者に丁寧な挨拶や対応を行い、居心地のよい環境づくりや関わりを進めていく。</li> <li>・友達と一緒に体操、マラソン、サーキット遊び等、体を使った遊びを積極的に取り入れ、健康な体づくりをする。</li> <li>・園内外の自然体験を通して、感じたことや考えたことを様々な方法で表現できるようにする。</li> <li>・生活の中で必要な言葉や挨拶を知らせ、人とつながる心地よさを感じられるようにする。</li> <li>・絵本などに親しみ、言葉の楽しさや美しさに気付く思いを巡らせ保育教諭や友達と同じ世界を共有し、心通わせる経験をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登園時、担任が玄関で受け入れ、挨拶を交わしたり、5歳児が弥栄学園で進めている「あいさつ運動」を玄関で行ったりすることで、多くの園児が嬉しそうな表情で元気に登園するようになってきた。</li> <li>○見たことや感じたことを園児がいろいろな表現で伝える姿を職員は丁寧に聞いたり、共感したりして園児の伝えたい気持ち大切にすることができた。</li> <li>○マラソン、サーキット遊び、固定遊具を使った運動遊び等、季節に合わせた場所・決めた時間に行うことで、粘り強く挑戦する気持ちや達成感、充足感など、様々な感情を味わいながらも豊かな心と体を育むことができた。</li> <li>○毎日の読み聞かせや毎月のポランティアの読み聞かせを楽しみに待つようになり、絵本に関心をもつ園児が増えた。</li> <li>△園児が友達と一緒に遊びを考え、活動や生活を進めていく中で、職員が「こうだろう」「こうなってくれたら嬉しい」という思いが強くなり、保育者主導となることがあった。</li> </ul>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の子育ての不安や悩みに寄り添い、喜びや楽しさを感じられるように支援をする。</li> <li>・未就園児の子育ての不安解消を図り、楽しく子育てができるように支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が園児の成長に気付き子育ての喜びを感じられるように園だよりやクラスだよりの発行と日々の連絡や話をする場を設定する。</li> <li>・子育ての悩みや不安、ストレスを抱えている保護者への相談に乗ったり、リフレッシュ支援を行ったりする。(個人懇談、一時預かり保育等)</li> <li>・未就園児の親子や、出産前の保護者が育児を楽しんで行えるよう相談にのったり、遊んだりできるよう園や地域子育て支援センターを開放する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育業務支援システムの導入により、保護者との連携では、遊びや生活・行事の動画や写真をタイムリーに配信することができるようになり、園児の様子や情報を発信することがスムーズに行えるようになった。</li> <li>○登降園時に園児の様子を伝えたり、保護者の表情を見ながら声をかけたりと、悩みや不安を共有することで安心した表情に変わっていった。</li> <li>○子育て支援センターでは、親子で楽しく遊んだり、利用者同士が悩みを出し合ったりと子育ての楽しさを知ったり、難しさ・孤立感を軽減したりするための相談や話ができる場所として提供することができた。</li> </ul>
研修(教員の資質向上・人権教育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児一人一人の発達や家庭環境を考え、温かい関わりで支援できるように職員の人権意識の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児のいろいろな姿を受け止め、園児が愛されているという感覚の中で、自分に自信がもてるように関わる。</li> <li>・保育観を共通理解できるよう職員会をもち、日常の保育実践について話し合い、保育者が自分を振り返り、園児一人一人によりよい支援ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○定期的に園内研修を進め、必ず、人権意識の向上を図るための内容を議題に入れ、保育の振り返りや学びにつなげることができた。</li> <li>○園児の行動の背景を考え、寄り添う言葉かけや関わりを職員一人一人が心掛けたことにより、落ち着いて生活できるようになった。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が安心安定できる環境を整え、意欲的に生活や遊びに向かう園児を育成する。</li> <li>・いろいろな人やものに関わり、コミュニケーション能力の育成を図る。</li> <li>・様々な地域の特色を教育・保育活動に活かし、豊かな心と健康な体を育む。</li> </ul>		

## 令和4年度 学校評価自己評価報告(こども園)

こども園名 [京丹後市立かぶと山こども園]

こども園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	
こども園教育目標 「元氣な体と豊かな心、生きる力を持ったたくましい子ども」 《元氣 勇気 笑顔 つながれ仲間》 ～一緒に遊ぼう！もっと遊ぼう！ 心と体ははずませて～	1 園児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。 2 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にすることを育てる。 3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現する力を育てる。	○久美浜学園年度末全体会において、他校種の先生方へ園所の乳幼児教育・保育について伝え、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有や乳幼児教育・保育の連続性、内容や指導への理解につなげることができた。 ○保育者が園児一人一人のよさと課題を受け止め、丁寧な支援を行うよう心掛けた。また、友達のをよさを認め合う時間を設け、自信をもって伸び伸びと自己発揮できるよう取り組んだ。 ○地域や保護者、社会人講師の支援を受け、自然環境を生かした保育を進め、色々な感動体験を味わう機会をもつことができた。 △全職員で今年度の研究主題に迫った環境づくりや援助の仕方等の研修を、十分に積み上げられなかった。 △園行事や小中学校との交流などが、保護者や地域の方とのふれあいや体験活動など進めていくことができなかった。	本年度こども園経営の重点(短期経営目標) ・一人一人が安心して自己発揮できる環境や関わりを工夫し、自己肯定感を育む。 ・身近な自然を活用した遊びの場を意図的・計画的に取り入れ、主体的で協同的な活動ができる環境を工夫し、豊かな感性や表現力を養う。 ・友達と関わったり協同的な遊びや活動を繰り返したりしながら、豊かな人間性の基礎を培う。 ・地域の人や自然、文化に触れる機会を設け、生活体験や社会体験を豊かにする。 ・安心安全な環境のもと教育・保育の向上に努める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
保幼小中 一貫教育 の推進 (保幼小 接続)	・久美浜学園の教育目標、目指す子ども像に向けて、基本方針を理解して取組を進める。 ・保育所、園、小学校と連携し、相互理解を深めながら一貫性・連続性のある指導に努める。	・久美浜学園の指導の重点や取組の柱とする内容を全職員で共通理解し、実践し検証していく。 ・他園所や小学校と合同研修の場(公開校、交流会、研修会、担任会等)を設けて「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、一貫性・連続性のある指導へつなげる。 ・園児と児童や生徒との交流が深まるようなコロナ禍での学校行事(運動会、学習発表会、マラソン大会、生徒会活動など)の仕方を工夫し、小中学校と連携をとりながらリモートや手紙のやり取り、写真の活用等を通していく。	○学園夏季研修会(全体会)をリモートで実施することで、大勢の職員が参加でき、学園の取組内容を理解することができた。 △学園の指導の重点や取組の柱を園の重点研究と関連付け、保育実践を進めてきたが、全職員(0～5歳児担任)で検証していくまでには至らなかった。 ○小学校の発表会やハールサル見学や中学生の職場体験等を通して、小、中学生と親しみをもつことができた。また、中学校の生徒会活動の一環としてSDGsの取組を共有することで学園内のつながりを深めることができた。

<p>教育課程</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい園生活を繰り広げる。</li> <li>・主体的、協同的に活動する力を育てる。</li> <li>・人とつながりあうことの喜びを味わい、人と関わる力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児一人一人の生活背景を理解し、肯定的に園児の姿を受け止め、自信をもって自己を発揮できるようにする。</li> <li>・「こども園大好き」「もっと友達と〜がしたい」と思えるような居心地がよく、夢中になって遊ぶことができる環境づくりを行う。</li> <li>・身近な自然の中で体を思い切り動かし、感じたり、考えたりする感動体験を取り入れた遊びを進める。</li> <li>・コロナ禍での異年齢児や地域との交流を工夫して行い、遊びや体験を通して人を思いやる気持ちや人と関わる楽しさを感じられるように進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園児が職員に“温かく包み込まれている”と感じられるように個々を受け止めながら教育・保育を進めてきたことで、保育教諭を信頼し、伸び伸びと園生活を送ることができた。</li> <li>○毎月・毎学期に教育・保育を振り返り、教育・保育目標を再確認しながら、それぞれの“よさ”に着目できるように取り組んだことで、園児同士が自然に認め合う姿を見せるようになってきた。</li> <li>○身近な自然環境『わくわくひみつち山』を活用し、散歩・運動遊びを多く取り入れたことにより、たくましい体や心が育まれ、最後まで物事をやりきる姿が多く見られるようになった。</li> <li>○園児と相談しながら時間や遊具・用具の使い方など園舎内外の環境を工夫することで、コロナ禍でも異年齢の交流を楽しみ、人を思いやる気持ちや友達と関わる楽しさを知ることができた。</li> </ul>
<p>子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が安心して子育てができるように支援する。</li> <li>・家庭の教育力向上を図るとともに家庭と連携し、「共育」を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が話しやすい雰囲気、心掛け、何気ない話や相談に丁寧に耳を傾ける。</li> <li>・未就園児や在園児の親子が楽しい雰囲気の中で子育てについて交流できる場を設定し、子育ての楽しさを伝えていく。</li> <li>・園児の様子を参観やたより、ホームページ、ドキュメンテーション等で保護者にタイムリーに伝え、信頼される園づくりに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○送迎時等に対話する機会や懇談等を意図的に設けたことで子育ての悩みや喜びを交わすことができるようになり、信頼関係も深まってきた。</li> <li>△未就園児と在園児の保護者が交流できる機会を計画していたが、コロナ感染予防のため、設けることができず、不十分であった。</li> <li>○ホームページやたより、スライドショー等を通して、保護者と園の活動や園児の姿を共有することができ、園の教育・保育への理解を高めることができた。</li> </ul>
<p>特色ある園づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人や自然環境を生かした活動を取り入れ、地域と協働した教育・保育を目指す。</li> <li>・自然体験や環境学習を通して、園児にSDGsを意識付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ボランティアや保護者の協力のもと地域の自然や特色を生かした遊びの環境を整え、体づくりや豊かな感性、人に対する愛情や信頼関係などを育むことができるような活動を積み上げていく。</li> <li>・山遊びを通して森林と触れ合い、自然環境を身近に感じたり、アルミ缶回収やごみの分別、廃品のリサイクル制作など体験的な学習から環境を保護する意識を育んだりして、生命や自然、もの等を大切にすることを育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の協力により田んぼでの泥遊びや裏山での山遊びなど自然環境を活かした遊びから、体力や感性を高め、地域の方への親しみや感謝の気持ちも育むことができた。</li> <li>○園児が培ってきたSDGsの思いを運動会や発表会の内容に組み入れることで、楽しみながら進めていくことができた。また、5歳児はみかんやすいかの皮などを使い、堆肥づくりに取り組み、環境（巡回）や食べ物を大切にすることを意識を持たせることができた。</li> <li>○保護者と共にアルミ缶やペットボトルキャップ回収に取り組むことができた。</li> </ul>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市や学園で掲げている教育方針等を職員間で共通理解し、本園の教育・保育計画と重ね合わせ実践を積み上げていく。</li> <li>・久美浜学園の取組を保護者に分かりやすく知らせ、保幼小中一貫教育への理解を深められるよう努める。</li> <li>・保護者や地域の協力のもとで自然体験や環境学習を積み重ねていく中で、園児のSDGs意識が継続できるようにする。</li> </ul>		